

第3回検討会を踏まえた今年度対応状況及び今後の対応(案)について

分類	ご意見等	今年度対応状況及び今後の対応(案)	備考(対応資料)
植物	① ヤナギを含め水辺に生育する植物は、出水により流出しても器官の一部でも流れ着けば、定着する生理をもっている。また発芽後2年以上のヤナギ類は根も張り、より流出しにくいと思われる。このような生理であるため、出水の状況によっては実生が流出しないことが想定される。今後も調査を継続することが重要と思う。	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成29年度も引き続き、ヤナギ類の生育状況調査を計画し実施した。 ● 発芽後2年目の個体について状況を整理した。 	資料-3 : p. 10-15
魚類	① 秋季調査で捕獲されたウケクチウグイは、体長5cm程度で今年生まれの個体と思われる。他地域では、過去に押切川や湯川で確認されている。依然として本種の生態に関する情報が乏しく、情報が増えるように調査を実施してほしい。一つは、春の産卵期の生態を明らかにすること、もう一つは環境DNAなどのサンプリングをするのがよいのではないかと。また、環境DNA解析により、ウケクチウグイを検出できたことには驚いた。	<ul style="list-style-type: none"> ● 春季調査を計画し実施した。春季調査ではウケクチウグイの確認に至らなかったため、初夏に稚魚を対象とした補足調査を実施し、ウケクチウグイの生息状況を把握した。 ● 昨年に引き続き、捕獲調査及び環境DNA調査を実施し、魚類相の把握を行った。 	資料-3 : p. 18 参考資料 : p. 12
	② フクドジョウが多く確認されていることに懸念を抱いている。在来のドジョウやシマドジョウと置き換わってしまうのではないかと。大いに注目である。	<ul style="list-style-type: none"> ● 過去の調査結果から、フクドジョウの捕獲量を整理した。 	参考資料 : p. 12, 13
鳥類	① 一般に産卵箇所として、コチドリは砂地の多いところを、イカルチドリは礫径の大きいところを選好する。掲載されている卵の写真ではそれぞれ概ねそのような傾向となっていると思う。また、熱赤外線スコープは卵の探索には良いツールだと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成29年度も引き続き、チドリ類の繁殖状況調査を実施した。 ● 礫河原指標種の他に、一般鳥類調査を春季、夏季、秋季に実施し、鳥類相の把握を行った。 	資料-3 : p. 20 参考資料 : p. 9
小動物類	① 確認されたマムシは一般にネズミやウサギの子供などの小哺乳類をよく食べるが、河川内に定着している個体であろうか。河川の利用の度合い、依存度というのが気になる。小哺乳類は、マムシ以外にキツネ、イタチ及び猛禽類などの主要な餌であり、阿賀川の生態系の一部である。標識再捕法などを実施し、個体数を調べると面白いと思う。ノウサギが多く確認されているが、河川の外から来たのか、内にすんでいるのだろうか。カメ類については、スッポンの写真が良く撮れていると思う。イシガメが大川の方で確認されたという話を聞いている。カメ類はほとんどが放逐個体と思うが一度調べてみたいと思っている。	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成29年度も引き続き、他の調査と兼ねて任意観察を実施した。 ● 礫河原を利用する小動物の確認するため、夜間自動撮影カメラを短期間設置した。 ● ノウサギ、マムシについてはH29年度も引き続き複数箇所を確認され、調査範囲を利用していることを確認した。 ● 秋季に捕獲したスッポンについてDNA解析を実施した。 	資料-3 : p. 22
昆虫類	① 各地区3ラインの調査ということで、調査ライン以外もカワラバッタが生息していることについて了解した。参考資料の昆虫リストについてもよく確認したいと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ● カワラバッタ調査を継続して実施し、個体群の維持を確認した。また繁殖確認を行った。 ● 平成29年度も引き続き、秋季に任意採集、ピットフォールトラップを実施し、昆虫類相の把握を行った。 	資料-3 : p. 21 参考資料 : p. 15-20
河道	① 洪水前後の堆積・洗掘の議論をしているが、生物のモニタリングを実施していく上では、洪水中にどのくらい深さまで土砂が移動しているかを把握することが重要と思う。トレンチなどを掘ってみればわかるのではないかと。河床変動の把握も重要な課題である。	<ul style="list-style-type: none"> ● リングセンサーを南四合地区に標高の異なる3箇所に設置し、平成29年10月洪水前後の河床変動状況を把握した。 ● ペイントマーカーを上米塚地区で1箇所、御用地地区で2箇所実施し、平成29年10月洪水前後の河床変動状況を把握した。 	—